

## 広報ふだい500号の歴史語る

勝田 英裕さん(62歳・自営業)



勝田さん  
(旭日区)

一言で五百号、四十年間、地域の情報を書いてくれた広報マンの方々に感謝とご苦労を申し上げたいと思います。広報紙の内容も日進月歩新鮮になり新しい、女性広報マン誕生で視点が豊かになって、良いカラーができることを期待しています。

## 広報ふだい500号おめでとう

普代中三年 太田 千尋さん



太田さん  
(太田名部)

明けましておめでとうございませう。なんと広報ふだいが記念すべき五〇〇号です。広報で普代のいろいろなことが分かります。友達が載ったときはさらに面白いです。これからも普代村の情報をたくさん載せてください。

## 広報は人をつなぐ会話の場

三田地勇治さん(27歳・自営業)



三田地さん  
(中央区)

「広報ふだい」五百号、刊おめでとうございませう。村外の若者にも人気があり、村内にも若さで頑張っている人がたくさんいます。なんだかんだ言ってもみんな普代が好きなんです。だから、もっと人をつなぐ会話の場である広報の末永い発行を祈ります。



大上くん  
(緑区)

## 「広報ふだい」500号記念

普代中2年 大上 勇くん

広報ふだい五百号おめでとうございませう。毎月広報が来るのを楽しみに待っています。とくに「ほくとわたしの作品展」や「おとうさん おかあさんあのね」の各保育園からのコメントなど、たくさんの方のコーナーを楽しんでいます。これからも村のことを楽しく掲載していきたくさい。

## 「広報ふだい」500回記念発行おめでとう

野崎 和幸さん(53歳)  
(屋号・みなとや) 横浜市在住・会社役員



野崎さん  
(中央区出身)

毎号にわたり、盛りだくさんの情報、感謝して拝見させていただきます。特に、その中で「若さでがんばっています」の「コラム欄」の連載は、興味を持って読ませていただいています。

「継続」することは、ある意味で、時代の流れを知らせる大切な役目だと思っています。この「コラム欄」は、これからも続けていただきたいと思います。

私の学生時代、社会人二、三年目のころと、現代の若者の生き方、考え方に相違があることを感じ、時代とともに価値観が変化しつつあることに気が付きます。やはり会社でも同様ですが、当時の成功事例を頭ごなしに言っても駄目で、ニーズと価値観の違い

私事ですが、現在神奈川県横浜市に住んでいて、はや三十年が過ぎようとしています。生活はすっかり慣れましたが、やはり、生まれ育ったところが一番です。将来は、古里に戻りみんなで飲みながら語り、歌って余生をおくりたいと思っています。

最後に、これまで担当してこられた方々の気苦労と努力に感謝いたします。

## 「広報ふだい」

## は故郷便り

藤島 勝己さん(67歳) 白井 主婦

創刊五百号、おめでとうございませう。当時、都会へ出て行った若者たちの元へ、いつのころからか「広報ふだい」

届くようになり、いつきに故郷との距離が縮まったような気がしたものでした。殺伐とした社会で故郷からの便りを

楽しみに待つ人々へも、冬の陽だまりのような「広報ふだい」が届けられることを願っています。